

# 抜群の構成力

『20世紀少年』  
浦沢直樹

MANGA  
REVIEW

ゴト千七

浦沢の構成はすごい。

検証するのが、イヤになるくらいすごい。

では、検証しよう。

それには『20世紀少年』の第一巻、第三話がいい。

タイトル名である「ギターを買った少年」通り、コマの接続にギターというキーアイテムが、重要な役割を果たしている。さらに、キーワードがそれを補強する。

まず、主人公ケンヂが小学生のときに、ギターを買う動機となる、フェンのラジオを聴く。で、オッチョに「音楽祭で50万人」が集まり、その聴衆が聴いていたのが、「ロック」であると聞く。

そのラジオから流れる、『ジャンピン・ジャック・フラッシュ』が小学生の頃と、次の中学生時代の「時と場所」が違うコマとコマを接続する役目を果たす。

ケンヂはこのコマで、ラジオから聴いていた「ガッガー！ ガガガー!! ガガガー!!」を口で言っている。それも、ギターの代わりにホウキを弾くマネをしながら。

それを山口さんに「クスッ」と、笑われて、ギターを弾くマネを止めて、ホウキで教室の床を掃きます。

また、時と場所の違うコマとの接続となり、それには、やはり、コマとコマの間が空いている。これは普通のコマとコマの間隔より、明らかに空いており、先の小学生の頃と、中学生時代のコマも同様に空いている。

このコマの開きを、夏目房之介さんのコトバを借りれば、「間白」が空いているということであり、その場面から時と場所が違う、ある種、この間白がひらいているから、時と場所も同時にひらいていることがわかり、場面転換をしたことを補強している。

しかし、場面転換をしても、接続作用のあるものが必要であり、それが、次のコマにいるケンヂの母ちゃんが出した「ギター？」のフキダシである。

この「ギター？」と内側に書かれたフキダシは、前のコマとくっついている。

その前のコマには、さっきまでギターを弾くマネをしていたホウキがあり、そのホウキが「代ギター」の役目を果たしており、フキダシのギターというコトバと、接続されるのである。

この場面転換は、映像（動画）でも出来る。ケンヂがホウキで掃くカット中に、母ちゃんの「ギター？」というコトバが聞こえてから、母ちゃんが酒瓶をいじっているカットに変わる。そこで、母ちゃんが酒瓶を下ろすか置いてかのアクションをしてから、次のカットになり、ケンヂ「買ってくれよお、ギター。」になるのである。

この場面のやり取りで、「ギターが重要である」という文脈が形成される。それも、親にねだって買おうとしているほど、ケンヂにとって重要なのだとわかる。（サブタイトルにあるほどだが、物語の中でギターがキーであることを丁寧に、読者に伝えている）

次の場面転換では、母ちゃんが「バカ言っていないで」のコマと、ギターバック(ギターケース?)を背負ったケンヂのコマである。この間にも間白がひらき、時と場所が違い、その時とは前のコ

マから「四ヶ月後」である。このコマとコマの間の接続は、「バカ」になってギターを買ったという接続もあるし、もう文脈上、ギターが重要であるから、ギターだけでコマとコマの間の接続が可能となっている。

この場面ではギターを買って、その帰り山口さんに会い、彼女に「左手の指先が、カチンコチンになるまで 練習すれば うまくなるよ。」と、アドバイスを受ける。そして、ギターには種類があり、クラシックギターを買ってしまったことを彼女の指摘でわかり、ケンヂはショックをうける。これは悲しい思い出で、たそがれ時がそれを助長している。物悲しく「ポロロン」とギターを鳴らしたケンヂの後ろ姿で、この場面は終わり、やはり、次もギターによってコマとコマが接続される。

これを解説すると、「ポロロン」と響かせて弾いたと、「シャカ シャカ」と弾いているという、「ギターを弾いた」と「ギターを弾く」というアクションも接続になっている。

さらに、この「シャカ シャカ」がスパイダーさんのセリフから『ジャンピン・ジャック・フラッシュ』であることがわかり、大学生となり髪型もファッションも変わってタバコを吸っても、その曲を弾いているのは、ケンヂだとわかる。さらに、二人の知人らしき大学生に「ケンヂ」と声かけられ、この人物がケンヂである実証拠が開示される。

そのケンヂはスパイダーさんとの会話で、「50万人…は 無理だけど、 武道館一杯の 客の前で(略)」というセリフを言う。

「50万人は無理だけど」は、オッチョの「音楽祭で50万人」集まったというセリフを、後にケンヂが引用する伏線であったことがわかり、さらに「武道館一杯」というのも、実は伏線であると後にわかる。

これは伏線と伏線が接続されている。もうちょっと詳しくいえば、伏線だったコトバと、伏線となるコトバが接続されている。いや、伏線から、伏線へバトンタッチしているのである。いやいや、伏線の二段ロケットといったほうがいいか。

ともかく、三年後にスパイダーさんは「武道館一杯」にするが、ケンヂはといえば…。

ここで、コマとコマがページを挟んでおり、その場合、場面転換のためにコマとコマの間白を空けるコマ割りは不必要である。

そして、接続としてのキーアイテムもキーワードもない。

そのために、時を知らせるネームがあり、場所はケンヂが働くコンビニの前の立て看板「酒」のコマである。それで次のコマがそのキングマートの看板と二階の窓をアオリで撮っているコマである。次には、ケンヂが酒に酔った自分を畳の上にさらけ出している。ギターを持って夢溢れた少年時代から、この有様になった落差を演出している。

これで、前のコマに二階の窓があるのは、一階が店舗で二階が住居であることを表し、その二階でケンヂは突っ伏して寝ているわけである。

そのケンヂの左手にカンナが触り、ただ触っているカンナにケンヂは自分の左指が昔は「カチンコチン」だったと語る。

また、場面展開する。これは、ページを開くので、間白を空けることはない。

そして、接続はハウキである。（ギターを手にする前に何をケンヂは持っていたのか、思い出

してほしい)

翌日になって、日課だろうと思われる掃除をしているところに、結婚して三浦の姓になった山口さんが通りかかり、軽い会話を交わす。

この場面では、明らかに二人の時間経過を表しており、山口さんは三人の子に恵まれており、その山口さんにギターを今でもやっているのかと、ケンヂは聞かれる。ここで、掃除をしているホウキを持っているのは、ギターがどこかにあってわからないからである。ホウキを代ギターするわけでもない。そのホウキがコマとコマの接続だったのは、ギターを弾いてないという、今のケンヂの状態を表している。要するに、ギターを買う前に戻っているのだ。(時代と成長に合わせて、ケンヂには「ギター」の変換があるのだ)

それを決定付けるのが、左手の指先が「すっかりぷにゅぷにゅ」になった、クラシックギターを間違っ買って買う前に、戻っていることだ。

そのぷにゅぷにゅの左手を横に出したケンヂは、武道館を一杯に出来なかった男である。

最後の場面転換、そのコマとコマの接続は、このケンヂの横に出した左手と同じポーズである。

しかし、そのケンヂの左手のポーズをした謎の男(ともだち)は、多くの聴衆の前で「世界の終わり」が来ると告げるが、彼と共にいる聴衆たちは「必ず救われる」と宣言するのである。

第三話の最後のコマは、武道館を真正面に据えたコマである。外からでも、中の歓声が響いている。つまり「武道館一杯」に、謎の男はしているのである。「武道館一杯」は伏線だったのだ。

構成として、見事である。

最後のポーズでコマとコマの接続を行うのは、誰にも出来る。だが、浦沢がすごいのは、同じポーズをとっている二人の人物の対比があり、キーワードの「武道館一杯」にしているのが接続を補強しているのだ。

ある『五つ星物語』こと永野護『ファイブスターストーリーズ』も、同じようなコマとコマの接続をしているが、キーワードの接続補強がされていないから、マンガ読みとして見ると、浦沢が一枚も二枚も上手であることがわかる。

そういえば、この第三話はカラーページがあり、それには「地球滅亡の日」が予見されたマンガ本を、少年たちが読んでいる内容である。これは、最後の「世界の終わり」が来ると予言することの伏線だったのだ。

こんなに、構成力のある人いないよ。

もう、ふりかえって、ひとつひとつ、解説していく度に脱帽するので、それは控える。

そういえば、荷宮和子が矢沢あいを「女版の浦沢直樹みたいな人」とっていたが、矢沢あいがいかに構成力があるとは思えん。過大評価だと思う。関係性で語るのは、仕方ないけど、浦沢みたいな人はいいすぎだと思う。『NANA』を読んだことないから、わからないけど。

さて、著作権法では「批評が目的の著作物の引用は認める」とあるが、あえて図画引用はしなかった。

それは、『20世紀少年』第一巻を、もう一度読み直してほしいからだ。

お手元にあるのなら、パソコンやiPadでこのテキストを表示し、単行本を開きながら、読み進めることをオススメする。

すると、私がまだ気づいていない、驚くべきことが発見できるかもしれない。

そのとき、浦沢の優れた、それこそ「抜群の構成力」に驚くことになるだろう。

《終》

備考 2005年に書いたマンガレビューを若干リライト

マンガレビュー 抜群の構成力 『20世紀少年』

<http://p.booklog.jp/book/20795>

著者：ゴトチヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotochihi1980/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/20795>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/20795>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ

広告

バンドデシネレビュー  
メビウスリング・ザ・オリジン  
『ARZACH』メビウス

作者メビウスは多くのマンガ家に影  
響を与えまくって、翼竜に乗って天  
国に旅立ってしまった 文中より抜粋



ブックログのpapierにて販売

¥20

Architecture  
Product  
System



対 策 の 考 察

『 第 5 回 』  
新 刊 直 樹

コ ー ス